

		福井高専 平成28年度計画	福井高専 平成28年度実績報告
方針基本		校長の統括の下で、機構の方針、および、ここに定めた本校の年度計画に従い、施策を確実に実施してゆく。また、PDCAを機能させ、よりよい施策の実効に努力する。	校長の統括の下で、機構の方針、および、福井高専平成28年度年度計画に従い、以下の記述のとおり、施策を確実に実施した。また、「福井高専教育改善システム」に則り、PDCAサイクルを機能させ、より良い施策の実効に努めた。
の向上に国民に対する他して提供すべき業務を達成する			本校における3つのポリシー(ディプロマ・カリキュラム・アドミッション)を策定し、平成29年4月の公表実施に向けて準備を整えた。
1 教育に関する事項	(1) 入学者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に実施された外部有識者会議での意見を尊重し、より開かれた高専を目指して中学校への個別訪問などを通じて高専制度の利点と実績をアピールし理解促進に努めるとともに、オープンキャンパス等高専の情報を地域社会に対しても継続的に発信する。 ・これまでの実績を踏まえ、県下全中学校を訪問し、中学校教員の高専に対する理解度とプレゼンスの向上に努める。 ・マークシート方式の導入による入試業務のワークフローの見直しを行う。 ・本校の特徴的な実験設備を用いた公開講座や出前授業の実施を通して、科学教育の啓発と高専のブランド力向上に努める。 ・Webページやカレッジガイドなどの広報を通して本校の各種イベントを紹介し、社会に向けての広報活動に努める。さらにメディアへの周知方法の改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月、8月、10月にオープンキャンパスを実施した。延べ1,072名の中学生が参加した。 ・福井県内の中学校の学校説明会に入試広報委員が訪問し、説明を行った。 ・10月初旬より入学試験説明会を開催し、延べ207名の中学生が参加した。 ・県内全域の情報発信を行う雑誌への記事掲載に関する検討を始めた。 ・春秋に行われる丹南地区中高連絡会において、地域内中学校の校長に本校の説明を行った。 ・マークシート方式の導入による入試業務のワークフローの見直しについては、今年度の監督要領及び採点要領の内容が昨年度と比較してかなり緩和されていたため、見直しの必要はなかった。このため、教員への説明もスムーズに行うことができ、また、今年度は採点のやり直しの要請もなかったため、採点業務も順調に終わることができた。ただし、採点業務に携わる人員は昨年度よりも2名増やすこととなり、今後の課題となる。 ・オープンキャンパスに関するリーフレットを児童館・公民館にも配布した。 ・各種メディアへの周知については、福井県全体に発信される情報誌に福井高専の記事を掲載するべく、当該情報誌の編集者と打合せを行い、改善のための検討を図った。今後、費用対効果を考慮に入れつつ、実施予定である。 ・実施した小中学生と一般を対象にした公開講座は23件(受講生約270名)、また出前授業は26件(受講生約1,990名)である。事後アンケートによると満足度は公開講座については約95%、出前授業については約87%であり、いずれも満足度は高く、科学教育の啓発と支援ならびに地域における高専ブランドの向上を図ることができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・年3回行っているオープンキャンパスの内容充実を図り、小学生や中学校低学年にもアピールできるように内容を精査して、高専へ興味を向けさせるように工夫する。また、アンケートなどのデータを本年度から立ち上げた入試広報委員会にて分析し、次年度へ向けた内容の検討を図る。 ・女子中学生及びその保護者を対象とした懇談会をオープンキャンパスの中に盛り込むとともに、女子中学生を対象としたパンフレットや広報誌などを刷新し、積極的にPRを行う。 ・平成28年度入学生から実施する学際領域カリキュラムの内容をパンフレットに盛り込み、イメージアップを図る。 ・5月に行っているキャンパスウォークでは、中学生だけでなく一般の参加を促すために公民館等への掲示等を行い、地域住民の本校に対する理解が深まるような取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月に行ったキャンパスウォークでは、中学生だけでなく、一般の参加を促すために公民館等への掲示を行い参加者を得た。一般の参加者の増加はそれほど多くはなかったが、小学生やその祖父母などの参加が昨年よりは多くなった。また、特別企画としてドローンの実演を行い、盛況であった。 ・8月に行ったキャンパスツアーは例年の通り実施したが、本県中学校理数グランプリと重なったため、午前中の参加者が減少したため日程調整をする必要がある。 ・女子中学生及びその保護者を対象とした懇談会を10月開催のオープンリサーチの中に盛り込み開催した。参加中学生からのアンケート結果は非常に好評であった。 ・平成28年度入学生から実施している学際領域カリキュラムの内容をパンフレットに盛り込み、入学試験説明会で説明した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域広報誌を使い、幅広い層への本校のプレゼンス浸透を図る。 ・入試を含め、広報パンフレットの見直しを図り、適切にわかりやすい情報提供に努める。 ・専攻科案内パンフレットを修正し、前年度において改善した入試方法で専攻科入学試験を実施する。 ・コミュニティーFM局を活用し、本校のレギュラー番組を持つことで、ステークホルダーだけでなく地域への情報発信を強化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内全域の情報発信を行う雑誌への記事掲載に関する検討を始めた。 ・平成28年度入学生から実施する学際領域カリキュラムの内容をパンフレットに盛り込んだ。 ・コミュニティーFM局を活用し、本校のレギュラー番組を持つことで、ステークホルダーだけでなく地域への情報発信を継続して行っている。 ・専攻科の入試に関して、専攻科入試の説明会を12月22日に4年生の学生を対象に、1月10日に3年生の学生を対象に開催した。このときに、次年度の入試から変更する点などについて説明した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・推薦選抜の出願資格について全高専共通の資格を設定し募集要項に解りやすく明示する。 ・中学生に対して高専でのキャリア育成を説明する中で、入試説明会なども含め、アドミッションポリシーの理解に努める。 ・平成28年度入学生から学年進行に伴って導入する学際カリキュラムを含む新カリキュラムの内容の浸透を校内外へに図る。 ・マークシート方式の導入による入試業務のワークフローの見直しを図る。 ・平成28年度の新カリキュラム導入に伴い、入学生の需要を踏まえ柔軟に対応できるよう、2年進級時に転科可能なシステムを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・帰国生にも推薦出願ができるように募集要項を改定した。平成29年度選抜への出願はなかったが、3月に上海日本人学校から2名の問い合わせがあった。 ・各学科のアドミッションポリシーを入学試験説明会で中学生に対して時間を割いて説明した。 ・平成28年度入学生から実施している学際領域カリキュラムの内容をパンフレットに盛り込み、入学試験説明会で説明した。 ・平成28年度入学生から実施する2年進級時における学科再選択制度の説明を入学試験説明会で行うとともに、現1年生に対しても説明会を実施した。現在7名が基準を満たす補講を受けている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な広報活動を継続的にを行い、中学校と連携を取りながら、高い志と資質を持った入学志願者の確保に努める。また、学校訪問に併せ、女性のキャリアパスを積極的にアピールし、女子志願者増を図る。 ・新入生アンケートを実施し、入試広報委員会及び入学試験委員会で解析し、次年度の資料とする。 ・アンケートにおける女子学生からの要望に基づき、階段に手摺目隠しパネル等を設置して女性の階段の昇降への配慮や、女子用多目的トイレ等の設備充実を図ることによって、女子の修学環境改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月、8月、10月にオープンキャンパスを実施し、10月のオープンリサーチでは本校女子学生との懇談の場を設けた。参加中学生からの評価は良いものであった。 ・中学校との連携については、本校が所在する丹南地区中高連絡協議会への参加、入試広報委員による中学校訪問、中学校が開催する学校説明会への参加を行った。 ・新入生アンケートを実施し、例年との違いは保護者や中学教員からの勧めでの受験による合格者が多いことであった、その他は例年とほぼ変わらない。次年度もアンケートを実施し、この傾向が多い場合には対策が必要である。 ・アンケートにおける女子学生からの要望に基づき、平成28年度は物質工学科棟1階の階段部分の透明アクリルパネルにフィルムを貼って女性の階段の昇降への配慮を行い、また、第一体育館の女子更衣室内便所において和式便器を洋式便器に改修し、女子の修学環境整備に努めた。

	福井高専 平成28年度年度計画	福井高専 平成28年度実績報告
<p>(2) 教育課程の編成等</p>	<p>・地域社会のニーズを的確に把握し、求められる人材を育成するために教育課程のブラッシュアップに努めてゆく。</p> <p>・平成28年度入学生から実施する新カリキュラムの学年進行に伴いその実施内容を精査し、産業構造の多様化や技術の高度化に対応する。</p> <p>・グローバルエンジニアとなるべき人材のさらなる育成をめざし、英語科はもとより、本科、専攻科、国際交流室、キャリア支援室等と連携した小委員会を立ち上げ、海外インターンシップや海外研修への派遣学生の増加に努める。</p> <p>・本校専攻科の高度化(H31年度の1専攻科移行)について継続的に検討する。</p>	<p>・平成28年度入学生が3年生となることから開始する学際領域カリキュラムの内容を精査中である。特にPBLを中心とする演習課題の内容を創造教育開発センターで検討中である。実施は平成30年度からであるが、学生への説明も必要であるため、平成29年度前期中に確定する計画である。</p> <p>・MCC本案(Ver.1.0)の内容を各学科において精査し、今後のカリキュラム改定を視野に入れて検討を行っている。II-E ライフサイエンス・アースサイエンス及びIV 工学基礎において、一般科目教室と専門学科とのさらなる連携が必要であるとの認識を得た。</p> <p>・グローバルエンジニア人材育成をめざし、校内各所管が連携し一元的に対応できる環境を整備中であり、3機関連携グローバル人材育成力強化プログラムに教員を派遣するとともに、岐阜高専による英語担当教員研修に複数名参加した。</p> <p>・専攻科改組に関して、専攻科委員会において継続的に議論し、11月21日に全教職員を対象に説明会を開催した。また、専攻科改組に関する方針や新規に導入する学際科目、サブゼミ科目、PBL科目等のシラバスを作成するなど具体的な内容を「専攻科改組について」において示した。</p> <p>・次期中期計画を踏まえ、KOSEN(高専)4.0イニシアティブのなかで実効的な施策を申請した。</p>
	<p>・15歳人口の減少を考慮しつつ、地域のニーズに的確に応えられるような教育課程を常に意識するとともに、高専の存在価値の向上に努めてゆく。</p> <p>・平成28年度入学生から実施する新カリキュラムの学年進行に伴いその実施内容を精査し、産業構造の多様化や技術の高度化に対応する。</p> <p>・社会のニーズの動向を把握することを目的に、修了生を対象としてホームカミングデーを開催する。</p>	<p>・平成28年度入学生が3年生となることから開始する学際領域カリキュラムの内容を精査中である。特にPBLを中心とする演習課題の内容を創造教育開発センターで検討中である(KOSEN(高専)4.0イニシアティブ)の中でも申請している)。実施は平成30年度からであるが、学生への説明も必要であるため、平成29年度前期中に確定する計画である。</p> <p>・MCC本案(Ver.1.0)の内容を各学科において精査し、今後のカリキュラム改定を視野に入れて検討を行っている。II-E ライフサイエンス・アースサイエンス及びIV 工学基礎において、一般科目教室と専門学科とのさらなる連携が必要であるとの認識を得た。</p> <p>・10月15日に専攻科ホームカミングデーを開催し、14名の修了生の参加を得て、在学生(専攻科生40名、本科生12名)、教員との情報交換を行うことができた。</p>
	<p>・学習到達度試験に対する学生のモチベーションを高める取り組みを実施し、その結果を学生にフィードバックし、その後の学習意欲の継続に資する取組を検討する。</p> <p>・TOEIC等英語力向上のために外部資格受検者増を図る取り組みを活性化させる。</p> <p>・低学年での英会話能力の育成を目指し、少人数教育を継続して導入する。</p> <p>・機構のCBT活用をにらみ、4年次英語の実力を判定する仕組みの導入を検討する。</p>	<p>・CBTトライアルを実施した。現状では5クラス同時実施が困難であることを確認した。</p> <p>・学習到達度試験の実施要項が12月8日に届いたため、現在、学生への成績のフィードバックのあり方を再検討中である。</p> <p>・TOEIC賛助会員になり4年生での全員受験をサポートするとともに、英検、工業英検に加えて、TOEICスコアも外単位として単位認定することとした。</p> <p>・低学年での少人数による英語教育は継続しているが、授業等で実施する場合は、教員数が2倍必要となるため、非常勤講師の削減との兼ね合いで効果的な運用を模索している。</p> <p>・英語科教員の尽力で、課外活動として留学生との懇談を主としたイングリッシュカフェを実施しており、参加学生の英語力向上に効果を上げている。</p>
	<p>・授業アンケートを各学期終了時にWEB入力によって実施する。また、前年度の授業アンケートに対する教員側のコメントを収集し、9月に学生へは紙媒体で、教職員へは学内グループウェアで公開する。</p>	<p>・昨年度の授業アンケート結果が確定したのが本年後期開始時であったが、教員からの達成度評価に関するコメントを付記してを取りまとめ、公開した。学生へのフィードバックは行えているが、教員の改善事例の報告をするシステムがないため、今後、事例報告の場を設けることが課題となる。</p>
	<p>・北陸地区高等専門学校体育大会及び全国高等専門学校体育大会を主管(開催)するに際し、円滑な運営に努める。</p> <p>・各種コンテスト及び高専体育大会に積極的に参加するとともに、そのための環境整備に努める。</p> <p>・学生のものづくり志向を涵養するため「福井高専キャンパスプロジェクト」を実施し、学生の企画立案・実施の能力涵養に努める。</p>	<p>・北陸地区高等専門学校体育大会(7月)及び全国高等専門学校体育大会(野球競技)(8月)を主管(開催)し、円滑な運営を行うことができた。</p> <p>・平成28年度福井県高等学校春季少林寺拳法大会兼全国高等学校総合体育大会少林寺拳法競技(5月)に出場し、内2名がそれぞれ最優秀賞及び優秀賞を受賞した。また、内1名が全国大会(インターハイ)出場を果たした。</p> <p>・福井県高校将棋選手権大会(5月)男子団体の部に出場し、3連覇を達成した。同チームは全国大会出場を果たした。</p> <p>・全国高等専門学校体育大会(8月)では、地区大会を通過した卓球、剣道、柔道、水泳、陸上、野球の6競技が出場を果たした。卓球女子の部では、シングルスで優勝、ダブルスで3位の好成績を残したほか、東海北陸選抜チームとして団体準優勝を果たした。なお、シングルス優勝の学生は3度の全国制覇を果たしたことから特別表彰を受けた。</p> <p>・第40回全国高等学校総合文化祭(吟詠剣詩舞部門)(8月)に本校学生が福井県選抜チームとして出場し、団体として優秀賞を受賞した。</p> <p>・ふくい理数グランプリ(高校部門:物理)(9月)に出場し、優秀賞を受賞した。</p> <p>・ロボットコンテスト東海北陸地区大会(10月)に2チームが出場し、内1チームが技術賞及び特別賞(ローム株式会社)を獲得し、昨年度に引き続き2年連続で全国大会(11月)の出場を果たした。</p> <p>・オムロン・高専機構共同教育プロジェクト平成28年度生産技術コンテスト(8月)に出場し、本校のチームが総合1位の成績を収めた。</p> <p>・G空間×ICT北陸まちづくりリアルコンクール(11月)に出場し、3年連続で入賞を果たした。</p> <p>・全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(1月)に出場し、優勝(文部科学大臣賞受賞)を果たした。</p> <p>・その他、プログラミングコンテスト(10月)、東海北陸地区高等専門学校英語スピーチコンテスト(11月)、デザインコンペティション(12月)、八光熱の実験コンテスト(12月)、小水力発電アイデアコンテスト(発表会)(3月)に出場した。</p> <p>・「福井高専キャンパスプロジェクト」の企画を募集し、6件についてプロジェクトを認めた。これらのプロジェクトに参画した学生は、活動成果をもとに12月に報告会を行った。</p>
<p>・学生のボランティア活動などの社会奉仕体験活動への周知・支援を行う。特に、各種イベントにおける清掃ボランティア等を通じて校内外の美化に関する意識を啓発・涵養する。</p> <p>・新入生オリエンテーション合宿研修において、地場産業体験に加え自然の中で活動する機会を設ける。</p>	<p>・新入生オリエンテーション(4月)にて、会場への移動過程に地場産業の概要を知ることができる場所(結ステーション)を含め、新入生205名及びスタッフが同施設を見学した。</p> <p>・寮生会を中心とした地元の河川敷の清掃活動(5月)に、19名の学生が参加した。</p> <p>・鯖江市立神明保育所の保育ボランティア(9月)に、7名の学生が参加した。</p> <p>・学生会主催のクリーン大作戦(10月)に、57名の学生が参加した。本校から鯖江市内と越前市内の通学路を中心に商店街や住宅地、河川敷、公園などを通る4コースに分かれてゴミ拾いを行った。参加学生の満足度は89%であった。</p>	
<p>(3) 優れた教</p>	<p>・企業などでの豊富な実務経験者、技術士等の国家資格を有する者、および他の教育機関での経験を有する者の採用に向けて努力する。</p> <p>・教員選考時には面接に加えて模擬授業等も課し、高専教員としての適格性を見極め、多様な価値観を吸収・活用できる組織となるよう努力する。</p> <p>・高専・技科大間の教員交流や三機関連携事業の内容や利点を経験者による報告会等を通して周知するとともに積極参加を促し、幅広い知見の習得とキャリアアップの機会を提供してゆく。</p>	<p>・教員公募に際して、企業経験者2名を含む優れた教育力を有する者を5名採用した。引き続き、豊富な実務経験に加えて技術士などの国家資格を有する教員を採用する方針である。</p> <p>・教員選考時には面接に加えて模擬授業等も課し、高専教員としての適格性を見極めた。</p>
		<p>・平成28年度は、当該制度に基づく教員の受入れ実績はない。</p> <p>・3機関連携事業グローバル人材育成力強化プログラムに教員1名を参加させた。</p>

	<p style="text-align: center;">福井高専 平成28年度年度計画</p>	<p style="text-align: center;">福井高専 平成28年度実績報告</p>
「 員 の 確	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な経験や高度な力量を持ち、かつ、多様な人材を確保できるように採用人事に工夫を凝らす。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員公募に際して、企業経験者2名を含む優れた教育力を有する者を6名採用した。引き続き、豊富な実務経験に加えて技術士などの国家資格を有する教員を採用する方針である。 教員選考時には面接に加えて模擬授業等も課し、高専教員としての適格性を見極めた。
	<ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画の趣旨を踏まえ、女性教員の積極的な採用に向けて努力するとともに、支援制度の周知と活用を図る。 パウダールーム等の設備を充実させるとともに、階段等に手摺目隠しパネルを設置して女性の階段の昇降に配慮する。 女性教員を採用した場合は、教育研究活動に必要な特別経費の配分を行い、就業意欲の向上に努める。 女性休憩室の設備充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 公募においては女性優先を明記しており、平成28年度に電気電子工学科において教員1名を公募した際にも、「業績の評価において同等と認められる場合は、女性を優先的に採用する」旨明記した。 第一体育館女子更衣室の窓ガラス及び鍵の取替えと内装の修繕を実施した。
	<ul style="list-style-type: none"> 他の教職員の模範となるような成果等をあげている教職員による講演会を開催し、モチベーションの涵養を図る。 全国高専フォーラムへの積極的な参加を促す。 福井県大学間連携事業(フレックス)主催のFD研修会やワークショップへ参加する。 技術士制度に関する講演会、ティーチングポートフォリオに関する講演会等のFD講演会を開催する。 Webシラバスやアクティブラーニングに関する講習会へ積極的に参加するとともに、先進校を視察して情報共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度高専機構理事長部門賞を受賞した教員及び永年にわたって授業改善に取り組んできた教員の講演会を開催した。 合理的配慮に関するFD講演会を実施した。 全国高専フォーラムへの参加者は、10名であった。 福井県大学間連携事業(フレックス)主催のFD研修会やワークショップへ創造教育開発センター員が随時参加している。 校長が、最高責任者として、教職員に学校運営の基本的考えと取り組み姿勢について訓示を行った。 アクティブラーニングに関する講習会へ2名の教員が、インストラクショナルデザイン講習会に1名の教員が参加し、創造教育開発センター会議で報告を行った。 社会科教員が舞鶴高専に出向き、授業参観及び社会科教育に関する情報交換を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の勤務意欲の高揚及び本校の活性化を図ることを目的に、職務に精励し、その功績が顕著な者を理事長表彰対象者として推薦する。また、全教職員を対象とした校長表彰を、より公正な基準に改正し継続して実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の勤務意欲の高揚及び本校の活性化を図ることを目的に、職務に精励し、その功績が顕著な教員1名を理事長表彰対象者として推薦した。また、年度末には他の教員の模範となる業績を上げた教員4名に対して校長表彰を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> 教育研究の発展と活性化のために、在外と内地の研究員制度の利用を奨励する。 「高専・技科大間教員交流制度」を利用して教員交流を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 3機関連携事業グローバル人材育成力強化プログラムに教員1名を参加させた。また、英語力向上研修として英語教員を3週間ニューヨークに派遣した。 教育研究の発展と活性化のために、教員に対して在外と内地の研究員制度の利用を奨励した。 平成28年度については、「高専・技科大間教員交流制度」による教員交流の実績はなかった。
(4) 教育 の 質 の 向 上 及 び 改 善 の た め の シ ス テ ム	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度入学生より実施する学際カリキュラムがモデルコアカリキュラムを包含するように教育内容を精査する。 シラバスの記載方法の標準化に関して検討を行うとともに、ルーブリックの有効活用について精査する。 アクティブラーニングについては、全国高専フォーラム等に参加し、学内普及に努める。 工学基礎コースの発展的解消に伴い、1年生の専門性向上について専門の導入基礎教育を実施する。 各学科、一般科目教室及び専攻科等では以下の取組を行う。 <p>【機械工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度から開始したモデルコアカリキュラムへの対応と、ものづくり系科目の充実を目的とした教育課程への移行を進め、創造性を高める体験型教育を実践する。平成28年度入学生から開始された1年の専門科目の強化と高学年への学際科目の導入を目的とした新カリキュラムについて、科目間の連携など授業内容を再検討し、ものづくり系科目のさらなる充実を図る。また、WEBシラバスへの移行に向けた検討を開始する。 <p>【電気電子工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで進めてきたモデルコアカリキュラムへの対応について、見直し科目の評価を行うとともに、必要に応じ内容を再検討し教育の質の向上を図る。また従来より取り組んできた学年毎にレベルアップするコンテンツ形式のものづくりや、演習・設計系科目と、アクティブラーニングとの整合性について議論し、学生の主体的な学びによる問題解決能力育成環境の構築を目指す。ICTを活用した演習を継続的に実施する。 <p>【電子情報工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 低学年から高学年に至るまで、専門科目の基礎および応用的な知識の定着のため、資格試験の積極的参加を進める。 モデルコアカリキュラムの内容を踏まえた上で、ネットワーク技術の拡大による社会的要請に答えるため、3年生で情報ネットワーク概論の授業を開始し、その内容の充実、改善を図っていく。 学外のICT関連企業の技術者と協力し、アクティブラーニングを意識した実践的かつ創造性を育むカリキュラムの取組みを目指す。このために様々なコンテスト応募を継続して行う。 教室や自宅においても、演習室に近いPC環境を与えることで、座学と実験実習の連携、自主的な学習をおよびアクティブラーニングを推進することを目的に、平成29年度ないし平成30年度にBYOD(Bring Your Own Device)を用いた授業の導入を検討する。 <p>【物質工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度新入生に対してモデルコアカリキュラムに対応した教育課程を導入した。今後、実施に係る具体的課題(本学科の基軸である「コース制(材料工学・生物工学)教育課程」における専門科目のより効果的な授業内容と方法)を詳細に検討する。 <p>【環境都市工学科】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度入学生が3年生となるときから開始する学際領域カリキュラムの内容を精査中である。特にPBLを中心とする演習課題の内容を創造教育開発センターで検討中である。実施は平成30年度からであるが、学生への説明も必要であるため、平成29年度前期中に確定する計画である。 Webシラバスの平成29年度試行、平成30年度全面移行を目指して、本校Webシラバスの記載内容との整合性が取れるように、また、ルーブリックの有効活用につながるように検討した。創造教育開発センター員以外に学科及び教室からの代表者に対してWebシラバス説明会を1月に実施した。平成29年度前期中に全教員が入力できるように説明会を実施する計画である。 アクティブラーニングに関する講習会へ2名の教員が、インストラクショナルデザイン講習会に1名の教員が参加し、創造教育開発センター会議で報告を行った。 平成28年度入学生から実施する2年進級時における学科再選択制度の説明を現1年生に対して説明会を実施した。現在7名の希望者がいる。 平成29年4月に公開が義務付けられている「3つのポリシー」を策定した。 なお、各学科、一般科目教室及び専攻科等では、以下の取組を行っている。 <p>【機械工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度から開始した、モデルコアカリキュラムに対応し、ものづくり系科目を充実した教育課程への移行を進め、創造性を高める体験型教育を実践した。1年で強化された専門科目については、高学年の授業への流れを確認しながら授業を開始し、転学科希望学生への補講内容を決定し、来年度の開講科目について検討を行った。学校全体の方針に従いながら、機械工学科のディプロマポリシー、カリキュラム・ポリシー及び学際科目シラバスを作成し、WEBシラバスの検討を行った。 <p>【電気電子工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで進めてきたモデルコアカリキュラムへの対応について、見直し科目の評価を行うと共に、必要に応じ内容を再検討し教育の質の向上を図った。例えば、電気磁気学ではモデルコアカリキュラム「V-C-2 電磁気」にある電磁誘導までの対応を確認すると共に、更に「マクスウェルの方程式」「電磁波」を発展的学習として授業内容に取り入れた。また、従来より取り組んできた学年毎にレベルアップするコンテンツ形式のものづくりである「電気創作コンテスト(電気回路I・II)」「電子創造工学」や、演習・設計系科目と、アクティブラーニングとの整合性について議論した。その結果、今後は学生の主体的な学びによる問題解決能力育成環境の構築を目指すため、課題内容の改善、環境整備について継続的に検討・実施することとした。情報技術を活用した演習を電気電子設計、制御工学I・II、現代制御工学などの科目で継続的に実施した。 <p>【電子情報工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資格試験への積極的参加については、デジタル技術検定の准会場となる準備をし、担任、教科担当を通じて、案内を配布し、他の各専攻科にも積極的に参加を促している。

**福井高専
平成28年度年度計画**

・8月に開催される全国高専フォーラムで公開予定の「モテルコアカリキュラム」を受けて、科目の配置(開講学年、コマ数)や講義・演習・実験・実習内容の見直しに着手する。
 ・モデルコアカリキュラムと連動するCBT(Computer Based Testing)方式の問題作成に向けて準備を進める。
 ・研修を経て、アクティブラーニングの導入を図り、併せて、ルーブリックによる受講者の学習到達度評価を試行する。
【一般(自然)】
 (数学)
 ・学生の基礎学力の定着と主体的な学習を促すための様々な教授方法を検討する。そのため、この間進めてきたICT利用の授業やグループ学習などを取り入れた授業の検討を進める。また、教科書を解説した動画を作成し、学生が自主学習できる環境整備に努める。
 (物理)
 ・実験項目を見直し、基礎学力のいっそうの向上に努めるとともに、到達度試験結果を学力試験や評価の中に取り入れる。
 (化学・生物)
 ・学習ノートの利用促進や定期的な小テスト等を増やすように努める。また、より興味を引き出すために、実験の回数をできる限り増やす。生物ではICTを活用し、最新の生物に関する話題を取り上げ、興味を持たせる。
 (体育)
 ・自己管理能力育成のために、実技の授業で毎年実施している1～4学年の体力診断テストを基にして、全国や校内集計統計を元に自己の体力の特徴等の把握と課題発見のための考察レポートを作成させ、4年間ファイリングさせ、その課題が部活動や、生活習慣の改善に繋がるよう促す取り組みを行っている。これらの取り組みを継続し、さらに、保健体育受講最終学年(4学年)で行っている、生活習慣病対策としてテキストを用いたショートタイムレクチャーを充実させる。

【一般(人文)】
 (国語)
 ・実社会とつながる言語表現の実践である「手紙の書き方体験授業」を、キャリア教育的取り組みの一環として、継続して実施する。
 ・学校行事(弁論大会)や広報活動(ラジオ番組)、および校友会誌編集・発行への、それぞれ関係する学生への指導を通じた支援についても、継続する。
 ・新たなスタッフを得たことにより、就職・進学を控えた高学年の学生に、より実用的な日本語運用について指導することが可能となったため、この点にもさらに力を注ぐほか、学生の自主的な学習を促すような授業実践に努める。
 (社会)
 ・前年度に実施したアクティブラーニングの検討に基づいた授業実践について、担当者間で授業見学を行いながら、その改善について議論する。
 ・「モデルコアカリキュラム〔試案〕」をより発展的に運用するためのシラバス案や授業方法を検討する。
 (英語)
 ・基本的な英語知識の取得と実践的な運用能力の育成を目標とした授業実践を行う。低学年においては、基礎的な文法・表現学習と、身近な話題を中心としたコミュニケーション活動をバランスよく取り入れた授業を実践する。高学年、専攻科においては、より発展的・実践的な英語運用の機会を設けた授業実践を行う。
 ・全学年で共通の教材を用いて、基本的な語彙力の養成を図る。
 ・自学自習の奨励の一環として、実用英語検定、工業英語検定、TOEICの受験奨励とその試験対策講座を実施する。
【専攻科長】
 ・アクティブラーニング研修や到達度評価のためのルーブリック評価研修等に教員を派遣し、教育力のスキルアップに努める。
【創造教育開発センター】
 ・創造教育開発センター内に立ち上げたアクティブラーニングに関するWGを継続的に展開し、積極的な情報収集を学内外について行い、その内容を精査して教職員へ発信・普及に努める。

**福井高専
平成28年度実績報告**

た他、3年情報ネットワーク基礎、5年アータヘースの授業などで情報技術者試験の問題を定期試験問題に取り入れる取り組みを行った。さらに、来年度について、各クラスへの関係書籍への配置や関係科目教員による指導を強めていくことを申し合わせた。
 ・3年後期より情報ネットワーク基礎の授業を開始した。この授業を導入したことにより、情報系分野単独の学科として、モデルコアカリキュラムの情報通信ネットワーク領域で求められる到達レベルを確保できる見通しとなった。
 ・学外のICT関連企業の技術者との協力については、4年生前期において、与えられた課題に対して、多様な観点からの検討考察やグループでの共同作業を行うPBL科目の「創造工学演習」を引き続き実施した。本年度は地元IT企業(株)ignite代表の中西孝之氏を非常勤講師に迎えて、本科教員と共同で、講義および各グループの課題克服へのアドバイスをいただき、優良な成果について、全国高専プログラミングコンテストや福井ソフトウェアコンベンなどの各種コンテストに、13人の学生が出場した。
 ・来年度3年生へのBYODの導入については、学生の個人所有のノートPCを用いた授業が有効となる科目や教室のWifi環境の調査および現2年生の保護者に対して、導入についての意見、要望のアンケートを行った。以上に基づいて、具体的な購入方法や導入時及び授業における具体的な指導内容の検討を行い、春季休業中に、必要な物品の準備を学生に指導するとともに、保護者に対してその依頼を行った。この導入により、アクティブラーニングの推進にも繋がるかと期待している。
【物質工学科】
 ・平成28年度新入生から工学基礎コースが発展的に解消され、新しい教育課程に改正して1年次の専門性が強化されたが、入学生基礎学力の低下などによる問題点も浮かび上がってきた。新しい教育課程の2年次以降のシラバス等への反映で問題点を克服することなどを検討している。また、生物工学に関する新教員を4月に採用することが決定し、高学年での新しい「生物工学コース」の構築(遺伝工学などの科目を農工連携等を目指した食料生産や栄養科学に変更していく)目途が立った。
【環境都市工学科】
 ・既存のアドミッション・ポリシーに加えて、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーを策定した。これにより、環境都市工学科に所属する教員は高邁な識見を備えた人材をいかにして育み、輩出するのにかつてより共通理解し、連携して取り組めるようになった。これは、PDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメントの構築に向けた一歩である。
 ・環境都市工学科が担当する学際領域科目(3学年:空間情報工学、4学年:環境保全工学、5学年:建設材料)のシラバスをエクセルシートで準備した。いずれは、Webシラバスへ移行する。
【一般(自然)】
 (数学)
 ・年間7回にわたり、本科4、5年生にTAをお願いし、低学年を対象とした補習を行った。。基礎学力定着と主体的な学習を促すために、ICTを利用したり、グループ学習、学び合いなどの用いた授業方法などが実践された。教科書や教材を解説した動画は、数学科のサーバーに保存し、授業で利用できるようになり、学生の利用が少しずつ進んでいる。また動画の充実にもつとめた。
 (物理)
 ・実験項目と配置を見直し、基礎知識の定着の向上を図った。
 ・到達度試験の結果を評価に組み込み、モチベーションの向上に努めた。
 ・常勤、非常勤がランチタイムミーティングを週一程度行いコンセンサスを持った。
 (化学・生物)
 ・現在のシラバス通り実施していくと時間等に制限があり、学習ノートの利用促進や定期的な小テスト、実験回数の増加にはなかなか繋がらなかった。今後コアカリキュラムを中止にシラバスを精査する。生物でもICTの利用にはなかなか繋がらなかった。シラバスを検討していきたい。
 (体育)
 ・1～4年生の自己の体力テスト結果を基礎とした考察レポートは、統計上の位置づけにとどまらず、自己の運動習慣、食習慣を振り返るきっかけになっていることが確認された。とりわけ、4年生のショートタイムレクチャーで講義した生活習慣病に関する知識は、考察レポートの中で関連付けられ、自己の健康課題を意識させることができた。
【一般(人文)】
 (国語科)
 ・「手紙の書き方体験授業」を、昨年度に続いて2年生で実施した。日本郵便主催のアンケートをみても、学生が手紙に関して知識と関心とを高めることができたことが読み取れる。
 ・学校の諸活動に関する支援も、例年通り実施した。特にラジオ番組については、国語に関する広報・啓蒙活動に関する書籍を上梓し、その効果をより高めることができた。弁論大会については、国語の教員が運営担当教員を兼ねたため、例年以上に直接に働きかけ、効果を高めることができた。
 ・4年「国語表現」のシラバスを大幅に改定し、卒業後の進路を見ずえ、かつ学生の興味に応える内容とした。その他の学年でも、学生の自主的な学習を重視する内容とした。
 (社会)
 ・今年度課題としていたアクティブラーニングによる授業実践の検討について、福井高専内での授業見学とそれにもとづいた議論を行うとともに、12月19日～20日に舞鶴高専に社会科教員が出張し、そこでの取り組みについても情報を収集した。
 ・授業改善やモデルコアカリキュラム〔試案〕の発展的運用のためのシラバス案などを、社会科担当3名全員が出席した5月26日および10月19日の会議で議論した。
 ・以上の取り組みを基礎として、モデルコアカリキュラムの改訂版に準拠した社会科教員間の中期的な役割分担を2月8日の会議で決定した。
 (英語)
 ・基本的な英語知識の取得と実践的な英語運用能力育成のために、以下のことを行った
 1) 低学年においては、文法項目の明示的な指導と学習した文法項目を用いたコミュニケーション活動を個々のクラスに応じて行った。また、基礎的な英語運用能力の育成を目的とし、多読活動を実施した。高学年においては、プレゼンテーション活動やTOEIC対策演習など、より実践的・実務的に必要とされる英語使用場面を想定した指導を行った。
 2) 全学年で共通の語彙学習教材を用い、クラスの状況に応じて演習、試験等を行いながら基礎学力の向上を図った。
 3) 課外活動として、定期的に実用英語検定面接対策講座、TOEIC試験対策講座、工業英検対策講座を複数回実施した。また、試験対策教材の貸出を行い、自学自習の奨励を行った。
【専攻科長】
 ・達成度評価のための研修会として、12月10日および3月25日に開催されたJABEE-日工教共催 国際的に通用する技術者教育ワークショップシリーズの研修会に教員4名を派遣した。

<p style="text-align: center;">福井高専 平成28年度年度計画</p>	<p style="text-align: center;">福井高専 平成28年度実績報告</p>
<p>・Webシラバス、学生ポートフォリオ等の研修会に積極的に参加し、「高専学生情報統合処理システム」の平成30年度導入に向けて活動を継続する。</p>	<p>・Webシラバスの平成29年度試行、平成30年度全面移行を目指して、本校Webシラバスの記載内容との整合性が取れるように、また、ルーブリックの有効活用につながるように説明会を行い周知を図るとともに移行作業に取り組んでいる。</p>
<p>・英語の外部検定試験以外にも、キャリア形成の重要な手段として在学中の資格取得を積極的に勧め、学習意欲とソーシャルスキルの涵養に努めるとともに、学科別の資格ガイドブックの充実を図る。 ・昨年度のJABEE継続審査の結果を受けて、指摘された事項を中心にプログラムの改善を図る。</p>	<p>・TOEIC賛助会員となるとともに、英語力向上を目的としたイングリッシュカフェを継続的に開催している。 ・実用英語検定、工業英語検定に加えTOEICスコアも外単位として単位認定することとした。 ・他の専門的資格取得も積極的に推奨し、キャリア形成に寄与させている。 ・JABEE審査結果を受けて、シラバス、評価基準、科目の流れなどの見直しを行い、全体の整合性をとった。</p>
<p>・英語のサマースクールや県内の大学連携事業に参加し、高専の枠を超えた学生の交流活動を促進する。 ・学生と学外の人たちとの積極的なコミュニケーションの場を設けるため、学生に出前授業や公開講座等へのスタッフとしての参加を促す。 ・体育系の部活動において舞鶴高専との交歓試合を実施し、交流を深める。 ・学校(学生)と地域との協働事業を推進する。 ・主として県内の大学等との連携事業を奨励する。 ・他高専学生寮との間の交流活動を推進する。東海北陸地区及び全国高専の寮生会交流事業への積極的な参加を進め、寮生会活動の質的向上を図る。 ・海外からの短期留学生の受け入れに対して、ネットワーク環境を含め受け入れ体制を整備する。また、日本人寮生との交流を推進する。</p>	<p>・本科3年生が、本科生として初めて高専機構主催の海外インターンシップに応募し採択されたが、諸般の事情により辞退した。今後、このようなことがないように高専機構として対策を講じていただきたい。 ・多くの学生が出前授業や公開講座等のスタッフとして参加し、ソーシャルスキルとキャリア形成の育成を図った。 ・プリンスオブシクラ大学(タイ)からの短期留学生を受け入れ、本校留学生及びそのチューターとの交流会を実施した。 ・鯖江市国際交流協会の方々を招いて、留学生交流会を開催した。 ・例年の通り、県内大学との単位互換協定を結んでいるが、本校の立地が福井市から離れているために、応募者はなかった。 ・学校としてではなく、学科単位、教員単位としての学生の交流活動としては、原子力人材育成事業、橋梁長寿命化のための現場研修会、建築作品発表会などで、県内他大生との交流した。 ・体育系の部活動において舞鶴高専との交換試合(5月)に、男女バスケットボール、女子バレーボール、サッカー、柔道、剣道、バドミントン、ハンドボールの8競技を実施し、交流を深めた。 ・高専祭(10月)の一企画として、地域との協働事業として「災害時グルメコンテスト」を実施した。これは本校の学生(高専祭実行委員会)が福井県防災士会等と共同で企画しているもので、今年度で5年目となる。今年度は本校学生25名及び地域住民40名が参加し交流を深めた。 ・本年度実施した25件の出前授業において、延べ32名の学生がスタッフとして出前授業を支援し、延べ1,833名の参加者(受講者)と交流した。また、公開講座では、22講座において、延べ30名の学生がスタッフとして支援し、延べ273名の参加者と交流した。 ・平成28年12月9日に、石川高専学生寮の寮生会学生10名と引率の教員2名を迎えて、寮生会同士の交流会を実施した。本校学生寮からは学生10名と主事補4名が参加した。情報交換とともに両校学生寮のプレゼンテーションを実施し、親睦を深めた。実施後は寮生会対象にアンケートを実施し、今回の交流会の意義と重要性について再認識してもらった。寮生会ならびに学寮全体の向上のきっかけになったと考えられる。 この交流会については、平成29年度も石川高専学生寮にて実施することとなっている。またその他の高専学生寮との交流会も企画中である。 ・平成28年5月20日から7月31日にかけて、タイPSUからの短期留学生(女子1名)を受け入れた。その際、昨年度整備をした女子留学生用の居室を活用している。また、滞在中に寮生会を中心とする寮生40名余りと交流会を実施している。</p> <p>・平成29年1月16日から20日まで、香港VTCからの短期留学生(男子4名、女子2名)を受け入れた。この際にも前述の女子留学生用の居室を2室活用している。また、男子留学生用に無線LANの環境を整備し、運用した。この無線LANについては、今後も継続的に運用する。滞在中に、こちらも寮生50名余りと交流会を実施した。今回は初めての試みとして、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを実施した。</p>
<p>・平成28年度入学生から実施する学際カリキュラムの学年進行に伴うカリキュラムの内容を精査し、産業構造の多様化や技術の高度化に対応する。 ・専攻科におけるエンジニアリング・デザイン能力育成科目「創造デザイン演習」、英語力育成科目「現代英語」、「技術者英語コミュニケーション演習」の授業内容及び評価方法を継続的に改善することを検討する。 ・本校の教員が個々に行っている特色ある教育実践例の内容を調査し、その内容を他の教員に紹介する場を多く設ける。</p>	<p>・平成28年度入学生が3年生となることから開始する学際領域カリキュラムの内容を精査中である。特にPBLを中心とする演習課題の内容を創造教育開発センターで検討中である。 ・平成27年11月の調査では、教員がALと認識して行っている授業は160科目であった。平成28年度は調査をしなかったが、公開授業週間を継続的に実施しており、その中でALを行っている授業への参観が多くなるよう努めている。今年度の公開授業週間における参観率は77%であり、参観後のFDLレポートの内容からALに関する認識が深まっていることがうかがえた。 ・「創造デザイン演習」においては、グループ学習形式のテーマを積極的に取り入れ、前期は「福井高専の動くマスコットキャラクター作成」、後期は「売れるボードゲーム作成」に取り組んだ。いずれも数度の発表機会を設けることでエンジニアリングデザイン能力の向上を図った。「現代英語」において、学生が特別研究で取り組んでいる内容をまとめ、英語でプレゼンテーションを行い、外国人非常勤講師との質疑応答を行った。</p>
<p>・平成31年に予定している認証評価受審に備え、プロジェクトチームを立ち上げ、教育システムの再点検と関係資料の整理など準備作業を開始する。</p>	<p>・平成31年度に予定している認証評価受審に向けて、プロジェクトチームを立ち上げ、関連の情報収集と各種関係資料や本校の特徴的な取組み等の整理を行った。</p>
<p>・専攻科でのインターンシップは必修単位である。また、本科では選択科目であるが、例年ほぼ全ての学生がインターンシップを履修しており、積極的な指導を継続する。 ・インターンシップ事前研修、及び実習終了後の報告会を行う。 ・インターンシップ先には本校教員が分担して訪問し、実習生の状況を把握するとともに就職開拓およびインターンシップ受入企業の確保につなげる。 ・共同教育コーディネーターを任用し、キャリアアップを目指したインターンシップを推進する。なお本件は企業技術者活用経費に応募中の「地域社会のテクノサポート拠点化推進事業」、および福井県における「県内の大学等における学生の定着促進事業」に基づき実施する。 ・専攻科の学生を対象として地元企業に根ざした海外インターンシップへの促進を図る。</p>	<p>・インターンシップには、本科4年生200名及び専攻科1年生25名が参加した。 ・インターンシップ前の平成28年7月13日に、本科4年生200名が知的財産に関する講演会に参加し、企業の活動や知的財産権についての研修を受けた。また、インターンシップ終了後に実習報告書を出した。さらに、本科4年生は平成28年10月17日に学科毎の計200名が参加した報告会を行い、専攻科1年生は平成28年10月12日に学科毎の計25名による報告を行った。 ・各インターンシップ先には教員が訪問し、実習生の様子や実習内容を確認するとともに、企業側からの要望や課題を聴取するなど、情報交換を行った。 ・企業技術者等活用経費「地域社会のテクノサポート拠点化推進事業」、及び福井県の補助事業「県内の大学等における学生の定着促進事業」に基づき、本校の産学連携応援組織である「地域連携アカデミア」の会員である福井県内企業4社に働きかけて、マレーシア及びフィリピンにおいて5名の専攻科学生をインターンシップ生として受け入れていただいた。 ・専攻科1年の学生は、7名が海外インターンシップ、18名が国内のインターンシップを経験し、これに関しての指導を行った。 ・専攻科インターンシップの事前指導として7月21日に弁理士の方から知財に関する講演会を開催し、学生に聴講させた。</p>
<p>・本科のものづくり系実験実習科目において知的財産の専門家を任用し、知的財産教育を行う。また、本科1年生と4年生、専攻科1年生を対象に知的財産に関する講習会を行う。なお本件は(独)工業所有権情報・研修館からの助成事業「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」を活用して実施する。</p>	<p>・今年度も知的財産コーディネーター1名を任用しており、学内全ての専門学科及び専攻科で知財関連教育を幅広く実施している。具体的には(独)工業所有権情報・研修館からの助成事業「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」を活用しており、すべての専門学科において教員1名を担当者として配置し、知的財産に関する講演会(1年生 12月15日実施)やアイデアモーターコンテスト(電気電子工学科2年)、電気創作物コンテスト(電気電子工学科3年)などを実施した。</p>

	<p style="text-align: center;">福井高専 平成28年度年度計画</p>	<p style="text-align: center;">福井高専 平成28年度実績報告</p>
<p>(5) 学生支援・生活支援等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福井高専独自のグローバル人材育成事業を立ち上げることを検討するとともに、今年度は専攻科生の海外インターンシップに対し、積極的に推奨・支援を図る。 ・長岡技術科学大学「アドバンスコース」の推進に継続的に協力する。 ・JSTS2016(筑波研修センター)とISTS2016(ガジャマダ大学)に学生を参加させる。 ・ISATE2016(東北大学)に教員を参加させる。 ・英語教育力向上のため3機関連携プロジェクトに教員を派遣し研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創立50周年記念事業の一つとして高度人材育成基金を創設し、グローバル人材育成のための学生海外派遣推進を図っている。 ・長岡技術科学大学「アドバンスコース」へは、5名の学生が参加した。 ・ISATE2016(東北大学)に英語科教員が参加し発表した。 ・英語教育力向上のため3機関連携プロジェクトの中で英語教員をニューヨークQCIに短期派遣し研修を行った。 ・JSTS2016(筑波研修センター、4/5-10、6日間)とISTS2016(インドネシア、ガジャマダ大学、10/4-12、9日間)に専攻科2年生1名を参加させた。 ・ISATE2016(東北大学、9/13-16、4日間)に教員1名を参加させた。 ・三機関連携の「教員グローバル人材育成力強化プログラム(豊橋、ニューヨーク、ペナン)」に教員1名を1年間(2016/4/1-2017/3/31)派遣した。 ・三機関連携の「マレーシア教育拠点職員研修(ペナン)」に職員1名を2016年12月に2週間(12/11-23)派遣した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業等へのICTおよびAL活用に積極的に取り組むため、創造教育開発センター内に立ち上げたWGの活動を継続し、先行事例と活用法のデータを収集・公開することを通して実践・普及に努める。 ・ICT導入・活用のためのインフラ整備(Wi-Fi回線容量の増強)に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善のためのICT活用に向けた研修会に教員を派遣した。また、一般教員に向けてMoodle講習会も実施し、授業等へのICT活用推進を行っている。 ・上記にあわせ、専攻科棟にWi-Fi回線を増強し、PBL教育の環境整備に努めた。 ・ブラックボードの利用については、高専フォーラムにおいてブラックボードが使えないかもしれないという情報があったため、その使用を控えた。その後、ブラックボードが復活したとの連絡があったが、本校では、これまでの使用実績があるのはMoodleであり、Moodleは県内近隣の大学での使用実績が豊富にあるため、教員の間にも安心感がある。ブラックボードには安心感がまだない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学生に対してきめ細やかな対応をするため、メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援のさらなる充実を図る。 ・学生相談室においてメンタルヘルス関連のアンケートやQUテストを実施し、学生の状況把握に努める。 ・校内外におけるメンタルヘルス関係の研修会等へ関係教職員を積極的に派遣し、情報共有と資質向上に努める。 ・カウンセラーや精神科医とも連携し、支援の必要な学生に対して適切に対応できるように学生相談体制の充実を図る。 ・卓越した学生に対する授業料免除を継続して実施する。 ・食育を通して健康管理を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生相談室において学生のメンタルヘルスマネジメントを十分に行うため、専攻科生も含めた全学生対象に、ハイパーQ-Uテスト(6月)、高専生活に関するアンケート(10月)を実施した。また、カウンセラーの補助としてインテーカーを新たに採用し、メンタルケアの充実を図った。 ・メンタルヘルス対応のために、精神科医が今年度延べ6回来校し、相談業務を行った。 ・新入生オリエンテーション(4月)において、1年生全学生を対象に、学生相談室長、総合情報処理センター長等が学校生活の過ごし方、情報セキュリティ等について説明した。また、同オリエンテーションの中で「服食」「食育」等に関する講話の時間を設け、特に朝食を摂ることの重要性について指導するとともに、食育の一環として野外炊飯を実施した。なお、朝食摂取の重要性については入学式後の保護者を対象とした説明会においても説明した。 ・全クラス及び学生寮をカウンセラーが訪問し、カウンセリング体制についての紹介を行った。 ・教職員を対象としたメンタルヘルス研修会(9月)に、浜松学院大学短期大学部幼児教育科准教授志村浩二先生を講師に迎えて「今どきの若者文化と家族関係」と題した講演会及び意見交換会を実施し、教職員70名が参加した。 ・教職員を対象としたFD研修会(9月)に、富山大学保健管理センター西村優紀美准教授を講師に迎えて「障害学生に対する合理的配慮の提供プロセスについて」と題した講演会を開催し、92名(内40名は校外からの聴講者)が参加した。 ・教職員を対象としたハイパーQ-Uテスト懇談会(9月)を開催し、教職員30名が参加した。 ・学生相談室員のスキルアップのために、自殺予防やいじめ防止を含む県内外16の研修会に延べ25名が参加した。 ・卓越した学生に対する授業料免除を継続して実施し、本年度は2名の学生を卓越した学生とした。 ・特別支援チームを継続的に運用し、身障者1名に対して教室の配置について配慮した。また、精神的に不安定な学生1名に対して特別支援チームを立ち上げ、精神科医とも連携して支援を行った。 ・学生の自殺に関する国内の現状について会議等の場で情報共有を図るとともに、動画等で具体的な対応を学ぶ機会を設けた。 ・教員会議等において昨今のいじめの動向等を周知するとともに、学生・保護者等を配布対象としたいじめに関するパンフレットを作成した。
<ul style="list-style-type: none"> ・校内も含めた今後の入寮希望者数を予想し、そのために必要な居住棟の増設と、浴室や食堂などの関連施設の充実について、検討するとともに、機構に対して整備を要望していく。 ・居室も含めた施設全体の老朽化の状況を調査し、その結果を基に、早急な対応が可能な箇所については随時対処しながら、今後の改善について検討を行う。特に男子浴室の老朽化と狭隘化、寮生食堂設備の老朽化について検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寮内の老朽箇所について、本年度は毎年12月に行っているアンケートだけではなく、毎月行っている役員区長会を中心に修繕箇所の調査を行い、(1)補食談話室火気使用機器周辺の壁補修、(2)各棟外壁および居室の修繕、(3)各棟洗面所修繕、(4)浴室高圧線とコーキング補修、(5)洗濯機交換など、老朽箇所を把握し、迅速に対応した。また学生寮の環境改善として、(6)樹木剪定、(7)厨房温水ボイラー修繕、(8)各棟屋上防水工事、各棟補食室清掃などを行った。また(9)食堂ガス回転釜の更新を行った。 ・防災訓練により改善すべき点として挙げた防災受信機、移設ならびに整備を行った。 ・図書室ならびに女子寮アメニティスペース周辺の、無線LANシステムの運用を10月より開始した。 ・南寮一階の留学生を対象とする無線LANシステムの運用を1月より開始した。 ・寮生会を中心に、図書室内の整備を行った。具体的には、(1)新規図書購入による図書の刷新、と(2)家具の更新を行った。 ・寮生からの要望に応える形で、図書室と女子寮アメニティスペースに、製図用ドラフターを設置した。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・独立行政法人日本学生支援機構などと緊密に連携し、各種奨学金制度などの学生支援に係る情報を学生に提供する。 ・産業界等の支援による奨学金制度に関する情報をホームページあるいは掲示等で学生に提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本学生支援機構等の奨学金制度などについて、掲示板での周知とともに担任を経由して情報提供した。 ・日本学生支援機構奨学生は37名、その他奨学生は20名であった。また、入学料徴収猶予許可者は1名、授業料免除対象者は、全額免除延べ47名、半額免除延べ25名、卓越した学生全額免除は2名であった。 	

	<p style="text-align: center;">福井高専 平成28年度計画</p>	<p style="text-align: center;">福井高専 平成28年度実績報告</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">(6) 整備・活用環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学間連携共同教育推進事業で開発された「進路支援システム」を本格的に導入し、学生による自主的な進路情報の取得に対する利便性を向上させる。 ・大学・大学院合同説明会およびキャリア教育セミナーを開催する。 ・卒業生を招請しての先輩講座を効果的に、積極的に行う。また、進路の決定した在校生の経験を本科2年生に伝える先輩フォーラムを実施する。 ・女子学生のキャリア教育のため、上記の先輩フォーラムにおいて、講師として女子学生を登用するとともに低学年の女子学生に向けて「高専女史百科 Jr.」を配布し、キャリア形成への意識向上を図る。 ・専攻科1年、本科4年生を対象にして就職対策講座を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「全国高専共通利用型進路支援システム」に求人情報の登録作業を進め、平成29年3月1日より学生への公開を始めた。学内及び学外から求人情報の検索に活用している。 ・平成28年10月22日に8大学・11大学院による大学・大学院合同説明会を開催した。参加学生は、本科生71名、専攻科生23名である。 ・平成29年3月3日にキャリア教育セミナーを開催した。151社・団体及び本科3・4年生と専攻科1年生が参加した。 ・平成28年6月30日に、卒業生の若手技術者を講師に招き、本科2年生200名の参加による先輩講座を実施した。 ・平成28年11月17日に、本科2年生200名が聴講する先輩フォーラムを学科毎に実施した。講師は専攻科生及び本科4・5年生の16名であり、進路決定までの経験等の内容で演じた。講師には女子学生6名を含み、女子学生のキャリア形成の参考になるようにした。 ・平成28年7月17日に本科1年生200名が参加したキャリアガイダンスを開催した。その際、女子学生には「高専女史百科 Jr.」を配布した。 ・平成28年10月27日に本科5年生及び専攻科2年生の計140名参加による労働法に関する講演会を実施し、社会に出てからのキャリア形成に関する講演を行った。 ・平成28年11月10日に本科1年生200名が参加した産業・職業セミナーを開催した。講師は本校卒業生の企業経営者であり、キャリア形成についての講演を行った。 ・平成29年2月15日に、キャリアアドバイザーを講師として、専攻科1年および本科4年生を対象とする就職対策講座を開催した。服装、面接、グループディスカッションなどへの対策について講演を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の実態調査やエネルギーの使用状況等の調査結果を踏まえ、整備計画等の見直しを図る。 ・福井高専キャンパスマスタープラン2015に基づき、施設・整備の老朽化状況に対応した整備を推進する。 ・入学者確保および利便性の向上に向け、寮の拡充等を要望していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校で進めている高専高度化のための教育プログラム強化の一環として、PBL教育並びにアクティブラーニングの推進があり、これらを実施できる室の確保が重要であるが、本校の場合、慢性的に教育研究施設面積が不足しており、平成29年度営繕要求で、本館ボイラー室等改修を要求した。平成28年度は一般教育棟1階ホールの一部に自習室(ラーニングcommons)を整備した。 ・福井高専キャンパスマスタープラン2015に基づき、老朽化した建物・設備について、優先度の高いものから整備した。平成28年度は、電子情報工学科外部改修(外壁)、機械実習工場の内部改修(空調機設置・内装)と外部改修(外部建具・外壁)、第一体育館の内部改修(内装)と外部改修(外部建具・外壁)を実施した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・第一体育館の高天井照明の落下防止対策および照度改善に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一体育館及び武道場の照明器具は経年20年以上で老朽化が進行しており、落下防止対策が無くランプも旧型で省エネの観点で好ましくないため、第一体育館西側2階部分と武道場については、平成28年度に落下防止付LED型照明器具へ更新した。第一体育館のアリーナ部分については、平成29年度中に落下防止付LED型照明器具へ更新する予定である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・PCB廃棄物を処理するまでの間、PCB廃棄物の適正な管理を継続するとともに、PCB廃棄物の処理に先立ち、荷姿登録票を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PCB廃棄物を処理するまでの間、PCB廃棄物の適正な管理を継続している。平成28年度は保管している安定器について荷姿登録票を整備した。処理については平成29年度に実施する予定である。その他低濃度PCB廃棄物の処理については未定である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習開始当初に必ず安全教育を行うことを徹底する。 ・学生及び全教職員に対する感染症対策に取組み、健康の維持・管理を行うとともに、二次感染の防止策を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習開始当初に必ず安全教育を行うことをシラバスに明記し徹底させている。 ・就業環境について月1度の定期巡視を行い、危険箇所の把握と指摘、状況改善を継続的に行った。 ・新任教職員に対する麻疹・風疹の予防接種を行うとともに、11月上旬には、全教職員に補助を行った上で、流行期前のインフルエンザワクチン接種を奨励した(接種率95%)。 ・教職員の感染症罹患に関して対応内規を作成し、二次感染の防止を図った。 ・救命救急法の講習会を年3回実施し、学生及び教職員45名が緊急対応の研修を受講した。(教職員の受講者累計:102名、受講率:72.3%)
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">研究や社会連携に関する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テクノセンター主催のJOINTフォーラム、アカデミア会員企業見学会、技術懇談会、産官学交流会を開催し、地域の企業や官公庁との連携を図る。また全国高専フォーラムにおいて本校の産官学連携活動や共同研究の成果を発表する。 ・外部資金の情報を積極的に提供し、資金獲得に向けて努力を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・12月7日に本校地域連携テクノセンター主催の産官学連携イベントである「JOINTフォーラム2016」を開催した。学内外から85名の参加者があり、産官学の間で地域密着の技術情報の相互交流を図り成功裏に終了した。 ・福井県美浜町と本校との間で「地域連携協定」を平成29年3月25日に締結し、次年度から具体的な連携プロジェクトを実施することになった。 ・科学研究費補助金(科研費)をはじめとする外部資金公募情報を積極的に提供するとともに、採択に向けてのノウハウを講演会を通して共有した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・県外ではTechBizExpoやエコプロダクツ、県内ではJOINTフォーラムや北陸技術テクノフェアにおいて共同研究の成果を発表する。また産学連携コーディネーターを任用して共同研究の受入を促進する。なお本件は企業技術者等活用プログラムに応募中の「地域社会のテクノサポート拠点化推進事業」に基づき実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・12月7日に開催した本校主催イベント(JOINTフォーラム)や外部イベント(北陸技術交流テクノフェア10/20-21、TechBizExpo11/16-18、アグリビジネス創出フェア12/14-16)において、研究の成果(一部)を発表した。地域社会との共同研究を推進する目的で、企業技術者等活用経費「地域社会のテクノサポート拠点化推進事業」を活用して産学連携コーディネーター1名を任用した。 ・同経費を活用して、平成29年3月15日に「テクノサポートフォーラム ～もっと地域とつながろう!～」を鯖江市内のホテルで開催した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産コーディネーターを採用して卒業研究や特別研究から職務発明に結びつける仕組みを検討する。また、教員対象の知的財産・技術相談講習会を実施する。なお本件は企業技術者活用経費に応募中の「地域社会のテクノサポート拠点化推進事業」に基づき実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業技術者活用経費「地域社会のテクノサポート拠点化推進事業」に基づいて知的財産コーディネーターを任用して学内から提出された2件の発明届を審議した結果、1件について機構申請を行った。

	<p style="text-align: center;">福井高専 平成28年度年度計画</p>	<p style="text-align: center;">福井高専 平成28年度実績報告</p>
<p>事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本校の産官学連携活動と教職員の研究シーズを紹介する冊子「JOINT」を発行する。 研究設備と研究設備利用規則を掲載した冊子「ラボガイド」を発行し、共同研究の推進に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の産学連携活動及び教職員の研究シーズを紹介するため冊子「JOINT2016」を発行した。 研究設備及びその利用規則を掲載した冊子「ラボガイド」については増刷を行い利用促進に努めた。また、第3ブロック研究協働共有化推進WGが取りまとめた共有可能設備のデータベースにおいて情報発信を行った。
<p>3 国際交流等に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> JSTS2016(筑波研修センター)とISTS2016(ガジヤマダ大学)に学生を参加させる。 ISATE2016(東北大学)に教員を参加させる。 本校協定校のプリンスオブクラ大学工学部(タイ)からの短期留学生を受け入れる。 三機関連携の「教員グローバル人材育成強化プログラム」に教員を派遣する。 JICA北陸の「教師海外研修技術系グローバル人材育成コース」に教職員を参加させる。 本校協定校のフェデレーション大学(オーストラリア)との交流事業の実施形態について検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> JSTS2016(筑波研修センター、4/5-10、6日間)とISTS2016(インドネシア、ガジヤマダ大学、10/4-12、9日間)に専攻科2年生1名を参加させた。 本校主催オーストラリア研修旅行(2017/3/20-30、11日間)に本科生31名が参加し、本校協定校のフェデレーション大学との交流を行った。 ISATE2016(東北大学、9/13-16、4日間)に教員1名を参加させた。 JICA北陸の「教師海外研修技術系グローバル人材育成コース(フィリピン)」に教員1名を1週間(7/31-8/6)派遣した。 本校協定校のプリンスオブクラ大学工学部(タイ)からの短期留学生1名を電子情報工学科で10週間(5/20-7/31)受け入れた。 2017年1月に高専機構協定校の香港VTCより6名の短期留学生を1週間(2017/1/14-20)受け入れた。
<p>4 管理運営に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地元企業の海外事業所ならびに大学において専攻科生の海外インターンシップを行う。 海外インターンシップ等の実績をホームページ等で公開するなど、希望者の増加に向けた取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元企業の海外事業所(マレーシア、フィリピン)において、専攻科1年生5名が夏期休業中に4週間の海外インターンシップを行った。また、高専機構協定校の国立台湾科技大学において、専攻科1年生1名が夏期休業中に4週間、同1名が春期休業中に3週間の海外研修を行った。 創立50周年記念事業の一環として設立した高度人材育成基金を用いて補助を行い、海外インターンシップを支援した。 平成28年度の海外インターンシップの実績をホームページに掲載し、広く公開した。
<p>4 管理運営に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> 福井県内自治体の国際交流協会との連携について検討を行う。 受け入れ留学生の居住環境の維持向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の海外研修の実績ならびに各種団体の海外留学や奨学金制度の情報を集約した。これらの情報は次年度より学内で周知する。 鯖江市国際交流協会と本校留学生との交流会(12/7)を開催し、本校から48名(外国人留学生9名、本校関係者39名)が参加した。 北陸3高専が連携して、受け入れ留学生の相互交流事業を輪番(本年度は富山高専本郷キャンパス)で行い、本校から11名(外国人留学生9名、本校関係者2名)が参加した。 留学生の居住環境の向上として、留学生の居住フロアに無線LAN環境を整備し、運用を開始した。今回の整備により、短期留学生に対しても、ネットワーク環境を迅速に提供できるようになった。
<p>4 管理運営に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本校に在籍する外国人留学生に対する研修会や交流会を開催し、我が国の人々や文化、自然に触れる機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 12月7日、本校に在籍する外国人留学生との懇談会を開催し、教職員との交流を図った。 異文化理解の一環として研修会開催し、名古屋の産業技術博物館などに赴き歴史などを学んだ。
<p>4 管理運営に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> 校長のリーダーシップのもと、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。 報告・連絡・相談がスムーズにでき、PDCAが円滑に回るような運営体制の維持と向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営連絡会、学校運営会議で決定したことを教員会議で全教員に伝え、それぞれの会議の場で意見等を聴取し、常にPDCAが円滑に回る体制を維持し、向上を図っている。また、事務系についても、事務連絡会議を開催し、情報伝達、意見聴取を行っており、常にPDCAが円滑に回る体制を維持し、向上を図っている。 校長のリーダーシップのもと、戦略的かつ計画的な資源配分として、15件6,000千円を配分してモチベーションの高揚に努めた。
<p>4 管理運営に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> 管理職研修会に教員を派遣する。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月に開催された機構主催「教員管理職研修」に校長補佐1名を派遣した。
<p>4 管理運営に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ストレスチェックの実施について、外注化を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 義務化されたストレスチェックを、平成28年4月の健康診断時に併せて実施し、外注化により速やかに集計し、チェック結果を教職員に配付することができた。しかしながら、チェック機能が従前に比し低下したことは否めない事実である。

<p>事 項</p>	<p>福井高専 平成28年度年度計画</p>	<p>福井高専 平成28年度実績報告</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の情報共有体制を精査し、Fail-Safeの機能充実に務める。 ・講演会・講習会などを行い、教職員のコンプライアンス意識涵養に努める。 	<p><教員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に開催された機構主催「新任教員研修会」に6名が参加した。 ・8月に開催された機構主催「中堅教員研修」に2名が参加した。 <p><事務職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に開催された機構主催「初任職員研修会」に3名が参加した。 ・6月に開催された機構主催「新任課長研修会」に学生課長が参加した。 ・9月に開催された東海・北陸地区高専係長級事務研修会に係長3名が参加した。 ・10月に開催された北陸地区国立大学法人等中堅職員研修会に事務職員1名が参加した。 ・11月に開催された機構主催「若手職員研修会」に事務職員1名が参加した。 ・11月に開催された北陸地区国立大学法人等新任係長・専門職員研修会に2名が参加した。 ・11月に開催された北陸地区国立大学法人等リーダーシップ研修会に総務課課長補佐1名が参加した。 ・12月に開催された北陸地区国立大学法人等人事労務研修に人事労務係長が参加した。 ・12月に開催された機構主催「情報担当者研修会」に1名が参加した。 <p><技術職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月に開催された東海・北陸地区技術職員研修会に技術職員2名が参加した。 ・8月に開催された東日本地域高専技術職員特別研修会に技術職員1名が参加した。 ・8月に開催された東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修会に技術専門職員1名が参加した。 ・10月に開催された北陸地区国立大学法人等中堅職員研修会に技術職員1名が参加した。 ・12月5日～27日の期間で、全教職員にコンプライアンスセルフチェックを実施し、意識涵養に努めている。 ・新任教職員オリエンテーション(4月1日開催)の際、コンプライアンスに関する講習を行い、コンプライアンス意識の向上を図った。 ・会計監査人による地区別研修会(テレビ会議3月10日開催)において、有限責任監査法人トーマツより「公的研究費の不正防止に関するコンプライアンス研修」が開催され、総務課財務系職員が受講し、コンプライアンス意識の向上を図った。 ・3月28日に総務課長が講師となり、全教職員を対象として「教職員の意識向上のためのコンプライアンス講習会」を開催した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・高専相互会計内部監査を実施し、他高専と情報を共有して必要なことは速やかに改善する。また、学内定期監査も実施し、適正な執行状況の維持に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての場合において、教員発注を認めてはならず、必ず総務課契約係に購入依頼書を提出するよう周知徹底している。また、納品検収については、総務課の納品検収所で行っており、直接教員室へ納品することのないよう業者に指導している。なお、新規の業者からは誓約書を依頼している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年3月の理事長通知「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策の徹底について」及び「公的研究費の管理・監査のガイドライン(平成26年2月18日改正)」の実施を徹底し、不適正経理を防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての場合において、教員発注を認めてはならず、必ず総務課契約係に購入依頼書を提出するよう周知徹底している。また、納品検収については、総務課の納品検収所で行っており、直接教員室へ納品することのないよう業者に指導している。なお、新規の業者からは誓約書を依頼している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員を職階別研修に積極的に参加させ、コンプライアンス意識の向上を図る。 ・他機関で実施している研修会に積極的に参加させ、事務職員・技術職員の一層の能力向上を図る。 ・職務に関して高く評価できる職員に対し、毎年度実施している校長表彰を継続して実施する。 	<p>(研修会参加)</p> <p><事務職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に開催された機構主催「初任職員研修会」に3名が参加した。 ・6月に開催された機構主催「新任課長研修会」に学生課長が参加した。 ・9月に開催された東海・北陸地区高専係長級事務研修会に係長3名が参加した。 ・10月に開催された北陸地区国立大学法人等中堅職員研修会に事務職員1名が参加した。 ・11月に開催された機構主催「若手職員研修会」に事務職員1名が参加した。 ・11月に開催された北陸地区国立大学法人等新任係長・専門職員研修会に2名が参加した。 ・11月に開催された北陸地区国立大学法人等リーダーシップ研修会に総務課課長補佐1名が参加した。 ・12月に開催された北陸地区国立大学法人等人事労務研修に人事労務係長が参加した。 ・12月に開催された機構主催「情報担当者研修会」に1名が参加した。 ・11月及び12月に開催された、豊橋技大、長岡技大、高専機構が連携して行う「グローバルSD(マレーシア・ペナン研修)第2グループ」に事務職員1名が参加した。 <p><技術職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月に開催された東海・北陸地区技術職員研修会に技術職員2名が参加した。 ・8月に開催された東日本地域高専技術職員特別研修会に技術職員1名が参加した。 ・8月に開催された東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修会に技術専門職員1名が参加した。 ・10月に開催された北陸地区国立大学法人等中堅職員研修会に技術職員1名が参加した。 <p>(校長表彰)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選考基準の改定を行った上で3月に校長表彰選考委員会を開催、教員及び事務職員計5名を校長に推薦し、全教職員の前で表彰式を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣大学等との人事交流を引き続き積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月に福井大学との間で、主任及び一般職員の計2名、10月に同大学との間で、係長1名について人事交流を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> ・校内ネットワークシステムシステムや高専統一の各種システムなどの情報基盤について、時宜を踏まえた情報セキュリティ対策の見直しを進める。 ・学内外のセキュリティ問題を監視・対応する体制を見直す。 ・教職員の情報セキュリティ意識向上のため、必要な研修の受講を推進する。 ・実務担当者(情報システム管理者等)を対象とした人材育成研修の受講を計画的に推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ監査の結果をふまえ、情報セキュリティ関係規程の見直しを行った。 ・情報セキュリティ監査の指摘を受け、総合情報処理センターのサーバ室の扉や窓の強化工事を行った。 ・情報漏えい対策として、学外の個人用メールへの転送禁止や、持ち運びのできるデバイスへの取扱いなどの規定の見直しを行っている。 ・情報セキュリティインシデントに備え、学内の体制を見直し、ウィルス駆除サーバ等の警告を各学科のセンター員にも配信し、トラブルの前兆を全体で共有する体制を整えた。 ・情報セキュリティインシデントへの対応として、窓口となる総務係に情報を集約するなど緊急措置の周知を徹底した。 ・11月24日、総合情報処理センター長より、情報セキュリティ研修の中から最近の事例を紹介する情報セキュリティ講習会を全教職員対象に緊急開催した。 ・11-12月 情報セキュリティ教育e-ラーニングを全教職員が受講した。 ・12月5-7日 実務担当者2名が情報セキュリティ関連の研修に参加した。 ・2-3月 機構本部の標的型攻撃メールの訓練に参加し、教職員の情報セキュリティ意識の高揚を図った。

		福井高専 平成28年度年度計画	福井高専 平成28年度実績報告
		・高専機構の第3期中期目標と中期計画に基づき策定された本校の第3期中期計画の下、各年度の計画を策定し、施策を適切に実行する。	・本校の第3期中期計画に基づき年度の計画を策定し、計画的に取り組んだ。
Ⅱ に 関 する 業 務 取 組 の 目 的 を 達 成 す べ き 措 置 の 成 果 を 示 す		・契約に当たっては、原則、仕様策定による一般競争契約とし、透明性及び競争性を高める。 ・複数年契約が可能なものから実施し、コストの削減、業務の効率化を図る。	・一般競争契約は、物品1件、役務5件を実施し、仕様策定等により透明性及び競争性の向上を図った。 ・複数年契約については、「複合機の賃貸借及び保守業務契約(平成28年5月10日締結)」、「公用車の賃貸借(メンテナンスリース)契約(平成28年7月20日締結)」を実施し、コストの削減及び業務の効率化を図った。 複合機: 従来の3年契約から5年契約に見直したことで約10万円/月のコスト削減となった。 公用車: 新規購入から5年のメンテナンスリースに見直しにより、必要経費の支払いは、ガソリン代のみとなった。 ・コスト削減、業務の効率化の観点からエレベーター保全業務は複数年契約(3年契約の3年目)を継続中である。
Ⅲ 支 計 算 及 び 人 員 費 の 見 積 も り を 含 む		・全教員対象の研究活動評価調査を継続実施し、教員の研究ポテンシャルの把握と向上に努める。 ・科学研究費補助金説明会へ研究推進委員会委員を派遣し、申請のテクニックを普及させるとともに、採択率向上のための申請予定者事前調査を実施する。 ・外部資金公募情報の学内Webサイトで公開するとともに全教職員宛にメール配信し、応募の機会を逃さないような情報伝達を行う。 ・科学研究費補助金申請者・外部資金獲得者に対するより具体的かつ効果的な研究支援・インセンティブ付与制度、及び学内・学外共同研究プロジェクトの推進体制について検討し、研究の活性化と外部資金獲得に繋げる。 ・産学連携コーディネーターを活用して地元企業との共同研究プロジェクトを推進する体制を整える。	・4月に全教員対象の研究活動評価調査を実施した結果、昨年度までと比較して本年度は、十分な研究活動と判断されるランクの教員が61名(80.3%)にまで大幅に増加した。 ・平成28年度科学研究費助成事業(科研費)の申請・採択状況については、申請件数59件、採択件数19件(新規8件・継続11件、総額18,390千円)、採択率は32%であり、最近5年間は比較的増加傾向にあるものの、本年度の実質的な達成度は昨年度とほぼ同レベルにとどまっている。 ・科研費申請率・採択率向上のための申請予定者事前調査を7月に実施するとともに(申請予定教員61名(80%))、科研費公募要領等説明会(9月)に教職員3名が参加し、全教職員に科研費等外部資金公募に関する情報提供とその内容の周知徹底を図った。 ・平成29年度科研費の申請状況は、申請教員51名(申請率68.0%)であり、昨年度実績47名(62.7%)に比較してかなり増加した。 ・研究活動の活性化と科研費申請・外部資金獲得への意識向上のために、より具体的かつ効果的な研究支援・インセンティブ及び共同研究プロジェクト推進を図った。 ・今年度も産学連携コーディネーター1名を任用して地元企業との共同研究プロジェクトを推進し、外部資金獲得の努力を継続した。その結果、5件(総額165万円)の共同研究を実施した。 ・科学研究費補助金(科研費)をはじめとする公的な外部資金についてはその公募情報を積極的に収集して学内周知を図った。 ・学内において学科横断的農工連携研究チームを立ち上げ、福井県内における他の研究機関や企業などと共同研究を始められるよう準備作業を行った。 ・教員へのインセンティブとして、校長裁量経費の中から研究活動実績に応じて710千円、若手研究者への支援に180千円、外部資金獲得者への研究環境整備に対する支援に計1,177千円を配分した。 ・今年度は、共同研究11件を締結し、計2,036千円の共同研究費を獲得した(平成27年度の実績: 12件、計5,300千円)。
Ⅳ 限 尺 入 額 金 短 期			
Ⅴ 計 保 し 財 産 に 、 産 供 又 は 責 任 を 負 う る 担 当 者 の 情 況 を 示 す			
Ⅵ 金 の 使 途 分 配		・決算において剰余金が発生した場合には、教育研究活動や学生の福利厚生等の充実、産学連携の推進などの地域貢献の充実及び組織運営の改善のために充てる。	・決算において剰余金が発生した場合には、教育研究活動や学生の福利厚生等の充実、産学連携の推進などの地域貢献の充実及び組織運営の改善のために充てた。
Ⅶ 開 閉 の 計 画 及 び そ の 他 の 主 務 省 令 に 関 する 事 業 の 進 捗 を 示 す		・福井高専キャンバスマスタープラン2015に基づき、大規模な自然災害にも耐える施設や環境整備を積極的に推進する。 ・省エネ化対策方針に基づいて、夏季及び冬季時の空調機器の管理を徹底し、省エネを図る。 ・GHP空調機の定期点検を計画的に行う。 ・電力監視システムにより、建物ごとの電力消費を把握し省エネルギーの推進に努める。	・本校の建物施設は主要なものから改修を進めているが、基盤となるインフラ設備が老朽化し事故等も発生している。これらを改善するため、平成29年度に営繕事業で受変電設備改修を、平成30年度概算要求で基幹・環境整備(給水設備等)を予算要求している。 ・省エネ化対策方針に基づいて、夏季及び冬季時の空調機器の管理を徹底している。又、計画的に老朽化した照明器具をLED型に更新し、更なる省エネに努めている。平成28年度は、第一体育館2階部分・武道場・物質工学新棟・総合情報処理センター2階第3演習室の照明器具をLED化した。 ・GHP空調機の経過年数に応じ、計画的に定期点検を実施している。 ・電力監視システムにより、建物ごとの電力消費を把握している。夏季に職員が校内の省エネ巡視を行い、省エネ活動を推進している。

		福井高専 平成28年度年度計画	福井高専 平成28年度実績報告
17 で 定 め る 業 務 運 営 に 関 す る 事 項	2	<p>人事に関する計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高専、高技科大間教員交流制度の活用により、教育研究活動の活性化と連携を深めるとともに、教育の改善と質の向上に努める。 ・教員及び事務・技術職員を対象とした各研修会等に参加させ、一層の能力向上を図る。 	<p><教員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度国立高専教員グローバル人材育成強化プログラムに教員1名が参加し、豊橋岐大に3ヶ月、ニューヨークに6ヶ月、マレーシアに3ヶ月の長期研修を修了した。 ・4月に開催された機構主催「新任教員研修会」に6名が参加した。 ・6月～8月に開催された豊橋岐大主催「短期英語研修」に英語科教員1名が参加した。 ・8月に開催された機構主催「中堅教員研修」に2名が参加した。 ・夏にJICA北陸主催で開催された「教師海外研修(技術系グローバル人材育成コース)」に教員1名が参加した。 ・9月及び12月に開催された岐阜高専主催「グローバル高専対象英語担当教員研修」に英語科教員2名が参加した。 <p><事務職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に開催された機構主催「初任職員研修会」に3名が参加した。 ・6月に開催された機構主催「新任課長研修会」に学生課長が参加した。 ・9月に開催された東海・北陸地区高専係長級事務研修会に係長3名が参加した。 ・10月に開催された北陸地区国立大学法人等中堅職員研修会に事務職員1名が参加した。 ・11月に開催された機構主催「若手職員研修会」に事務職員1名が参加した。 ・11月に開催された北陸地区国立大学法人等新任係長・専門職員研修会に2名が参加した。 ・11月に開催された北陸地区国立大学法人等リーダーシップ研修会に総務課課長補佐1名が参加した。 ・12月に開催された北陸地区国立大学法人等人事労務研修に人事労務係長が参加した。 ・12月に開催された機構主催「情報担当者研修会」に1名が参加した。 ・11月及び12月に開催された、豊橋岐大、長岡岐大、高専機構が連携して行う「グローバルSD(マレーシア・ベナン研修)第2グループ」に事務職員1名が参加した。 <p><技術職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月に開催された東海・北陸地区技術職員研修会に技術職員2名が参加した。 ・8月に開催された東日本地域高専技術職員特別研修会に技術職員1名が参加した。 ・8月に開催された東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修会に技術専門職員1名が参加した。 ・10月に開催された北陸地区国立大学法人等中堅職員研修会に技術職員1名が参加した。